

天声人語

2009年、村上春樹氏がイスラエルの文学賞「エルサレム賞」に選ばれた時のこと。多くの人から「授賞式に行くな」と言われたといふ。イスラエル軍の攻撃が激化し、多数のパレスチナ市民が命を落としていた。受賞すれば軍事行動を認めることになりかねない▼それでも村上氏は赴き、講演でイスラエルを批判した。「高くそびえる壁と、壁にぶつかると壊れてしまう卵があるとすると、私はいつでも卵の側に立つ」。卵とは武力で潰され、焼かれる市民。壁がイスラエル軍を指すのは明白だ▼1948年のイスラエル建国により、70万のパレスチナ人が故郷を追われ難民となつた。そんな悲劇の側に立つではなく、強大な壁の側に立つ。トランプ大統領の姿勢である▼ユダヤ教のみならずイスラーム教の聖地でもあるエルサレムを、イスラエルの首都だと認定した。非難する国連決議に加わる国には、援助の停止もありうると脅した。ビジネスの取引だとしても、あまりにえげつない。中東和平を仲介するどころか、かき乱している▼米国の強みは軍事力や経済力だけでなく、文化や価値観などソフトパワーにもあると言わってきた。提唱した政治学者ジョセフ・ナイ氏によれば「脅しや力ネではなく、相手を自然に引き付けて、求めるものを手に入れる能力」。そんな議論が成立した頃が懐かしい▼トランプ氏への抗議に伴い、すでに10人のパレスチナ人が死亡した。大統領の妄動、妄言なかりせば、失われなかつた命である。

2017・12・24